

平成25年度 長崎県立島原商業高等学校 学校評価表（自己評価） 最終評価

校 訓	礼節・友愛・創造
学校教育方針	<p>全生寮教育を通して「自他一如の精神（心）」を養い、知恵と勇気と行動力を備えた人間性豊かな人材を育成する。</p> <p>(1) 商業（ビジネス）及び家庭に関する豊かな教養と、専門的知識・技能を兼ね備えた有為な人材の育成</p> <p>(2) 人権に対する正しい理解と知識を深め、基本的人権を尊重する人材の育成</p> <p>(3) 自主的な生活態度と、責任を重んじる人材の育成</p> <p>(4) 文武両道を兼ね備えた、心身共に調和のとれた人材の育成</p> <p>全生寮教育とは、如何なる状況の中でも身を処して誤らない行動の基準を、集団（学校）生活の中で体得するものである。</p> <p>【全生寮本旨】</p> <p>1. 自己のうちに もてる全てを 発揮して 生きよう</p> <p>1. 全ての 他の人を 生かそう</p> <p>1. 全ての 人とともに 生きよう</p>
学校教育目標	<p>(1) 商 業 科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、経済社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 情報処理科 ビジネスの基礎・基本の能力を身に付け、情報化社会に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(3) 家 政 科 生活に関する専門知識と技術を身に付け、生活産業分野に貢献できる人材を育成する。</p>
本校の生活信条	<p>○ 挨拶（島商）しましょう。（心をつなぐ） ○ 掃除（島商）しましょう。（心をこめる） ○ 勉強（島商）しましょう。（向学心をもつ）</p> <p>○ 部活（島商）しましょう。（心身を鍛える） ○ 奉仕（島商）しましょう。（思いやりの心をもつ）</p>
前年度の成果と課題	<p>(1) 学校経営全般については、全生寮教育を根幹とする人間性豊かな人材の育成を目指した教育活動を展開しており、教育方針や努力目標については概ね周知できている。全生寮教育については、保護者アンケートや学校関係者評価でも高い評価を得ているが、今後も継続して全職員で取り組む必要がある。</p> <p>(2) 定員確保については、教務部を中心に中学生とその保護者対象のオープンスクールや学校説明会などで本校の特色をアピールしてきた成果が見られたが、引き続き日頃の特色ある教育活動をより明確にアピールできる資料を作成し、地元はもとより県下全域にも広く情報を発信していく必要がある。</p> <p>(3) 学習活動については、資格取得などに向けての取り組みは意欲的であるが、日々の家庭学習が低調であったので家庭学習強化月間を設定して意識を高めた検定直前だけでなく各教科からの課題を毎日取り組めるように調整し、家庭学習の習慣をつけさせる必要がある。</p> <p>(4) カウンセラーにおいては、各学年にカウンセラー係を配置し、気になる生徒の早期発見と情報交換を行い組織的な対応を図った。今後は、校内でのカウンセリング研修会に専門の講師を招聘して研修の質を高める工夫が必要である。</p> <p>(5) 各種検定の合格率アップと1級合格者数の増加については評価が低かった。各検定ごとに結果を検証し、効果的な対策を練ることが必要である。</p>
本年度の重点目標	<p>(1) 基本的な生活習慣を身に付ける。</p> <p>(2) 本物の学力を身につける。</p> <p>(3) 部活動に積極的に参加する。</p>
モットー 「凡事徹底」	<p>○小さなことを大切にし、実践する心</p> <p>○当たり前のことを当たり前にする心（挨拶、掃除の徹底）</p>

評価 4：十分達成している 3：おおむね達成している 2：どちらかという達成されていない 1：ほとんど達成されていない

【評価分野】 1 学校経営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標を設定し、教職員の共通理解のもとに教育目標の具現化を図る。	本校の教育課題や生徒の実態を踏まえた適切な重点目標を設定する。	1	3.2	3.1	地域と連携した教育活動はなされている。入学してくる生徒の実態を踏まえた学習指導、生徒指導を含めた躰指導を考えなければならない。
			校務分掌及び学年の経営方針にも学校教育の目標を具現化する方策を盛り込んで実践する。	2	3.0	2.8	学年目標を学校教育の目標をもとに設定しているが、形となって現すことができたか検討が必要である。
②学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育方針や教育目標等を生徒・保護者・地域等に説明したり、情報を流し、宣伝したりする機会を設ける。	3	3.8	2.9	P T A総会などの保護者が集まる機会を利用して情報提供ができた。マスコミ等へのP Rをもっと積極的に行うべきである。
			各教職員が経営方針を意識して教育活動を展開する。	4	3.0	2.8	具体的な活動や改善点を話し合う機会を多く持ち共通理解を図る必要がある。
③学年経営	学年目標の具現化	1年 島商生としての自覚を持ち学校生活にうまく適応させる。	全生寮教育を通して基本的な生活習慣を確立させ、高校生活への適応力を養う。	5	3.0	3.0	全生寮によって高校生活のスタートがスムーズに入り込めた。
			進路に対する意識を高め、早期に進路目標を決定させる。	6	3.0	2.0	目標が定まらず漠然と学校生活を送っている。
		2年 中堅学年としての自覚を促し、人格の陶冶に努めさせる。	日々の授業や家庭学習の充実を図り、学力向上に努めさせる。	7	3.0	3.0	家庭学習の充実が課題だが、進路目標と絡めて指導したい。
			個人面談や保護者面談を通じて、早期に進路目標を決定させ、その実現に向けて努力させる。	8	3.0	3.0	多くの生徒が、進路目標を決め進路先を調べている。
		3年 最高学年としての自覚のもとに、創造性に富む心豊かな人間性の涵養を図る。	規則正しい生活の中で主体的に考え行動する自主・自立の精神を養う。	9	3.0	3.0	自分で考え行動する精神が養われてきた。
			進路指導の充実を図り、能力・適性を生かした進路選択を指導・援助する。	10	4.0	4.0	面談等を通して、個人に合わせた進路選択が実現できた。
④学級経営	学級目標の具現化	学校目標や学年目標に沿った学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	11	3.1	3.0	学級目標をクラスで発表し、みんなで目標を達成しようとする意識付けをおこなった。

【評価分野】 2 教育活動							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善ならびに適切な学習指導	生徒の実態に応じて教材を精選し活用する。	生徒一人一人をしっかり把握し、家庭学習の充実を図り、個に応じた指導を行う。	12	2.9	2.6	個に応じた指導を心がけ、定期的に課題を出して基礎力向上に努めた。さらに家庭学習の充実を図る方策を考え実践したい。
			学習意欲の向上と自学自習を推進し、各教科年1回は研究授業を行うことにより指導力の向上を図る。	13	3.3	2.8	研究授業を行い指導力の向上を図った教科とそうでない教科があったので、次年度は全教科で実施できるようにしたい。
		教職員の共通理解のもと適切な指導を行う。	各種検定の合格率を上げ、生徒全員に何らかの検定で1級を取得させる。	14	2.5	2.2	1級未取得者を多く出してしまった。事後指導及び授業等を見直し次の検定で合格させたい。漢検に対する意欲が少し高まり、生徒個人の目標を達成できるよう指導をし
			シラバスを作成し、学習目的や学習方法・学習評価等を事前に生徒へ説明し、授業を展開する。	15	3.2	3.1	生徒の実態に応じたシラバスを検討したり、学習方法・授業等を工夫する必要がある。
②特別活動	HR活動や生徒会活動・学校行事の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	年間計画に基づいたHR計画を立て事前準備を十分に行い、活発なHRを展開する。	16	3.0	3.0	年間を通して計画的にHRを実施できた。性教育、DV防止、交通講話、薬物乱用防止についての講話は計画通り実施した。
			学校行事をとおして課題の発見や問題解決を促す指導・支援を行う。	17	3.0	3.0	各行事ごとにアンケートを実施し、次年度に活かすようにした。
③生徒指導	基本的な生活習慣の確立	全生寮教育の充実を図り、全教職員による継続した指導を徹底する。	授業の折には必ず礼儀作法・服装・学習態度（遅刻時の指導も含む）など具体的指導に努める。	18	3.0	3.0	授業開始時に校章、名札等の確認、礼法の指導等から授業に臨む姿勢を年間通して継続できた。しかし、指導には職員の温度差がある気がする。
			交通ルールへの遵守と自転車の二重ロックの徹底に努める。	19	3.0	4.0	生活委員を中心に年間を通じて活動し徹底されている。
④進路指導	個々の生徒の能力・適性を生かす進路指導の充実	学年に応じた系統的・計画的な進路指導を実践し、充実した進路相談を推進する。	保護者に対する進路説明会や保護者面談をとおして進路指導を充実させる。	20	3.3	3.3	保護者対象の進路説明会を開き、各種情報を提供した。保護者面談では、進路についての時間を多く費やし、意識高揚につながった。
			進路実現のために補習や自主学習を推進し、学力養成を図る。	21	3.0	3.0	補習授業や自学は、ほぼ計画どおりに実施できた。生徒の意欲向上が今後の課題である。

⑤健康・安全教育	健康や安全に対する態度の醸成	健康・安全についての正しい知識と理解を深める。	健康診断など保健行事を円滑に実施し、生徒の理解に努める。	22	3.0	3.0	計画通りに実施することができた。
		心身の健康の保持増進を實踐できる生徒を育成する。	担任・部顧問・カウンセラー部との連携を図り、早期問題解決にあたる。	23	3.0	3.0	横の連絡が遅く、連携がうまく機能せず対応が後手になることがあった。
⑥人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ、解決のための実践力を身に付けさせる。	人権・同和教育の学習を通し、全生徒・職員意識を高める。	24	3.0	3.0	人権教育は生徒に年2回（5月・11月）いじめ・人権に関する内容で実施、職員研修は1回（1月）教育センターの出前講座を利用して行い、理解を深めた。
		カウンセリングの充実	カウンセリングマインドを持って生徒の相談に応じる。	生徒理解のための諸検査を実施し、個別面談に活用する。	25	4.0	4.0
	担任・他分掌・学年との連携を密にし、いじめやメール等の嫌がらせ・不登校の根絶を図る。			26	3.0	4.0	生徒にいじめ・被害調査を3回実施、結果は職員に知らせた。大きな問題はないが、生徒の面談・クラスへの呼びかけなど担任・学年・部顧問等で対応してもらった。
⑦部活動	部活動の活性化	部活動の実績向上を目指す。	「全学部活動の日」の定着と部活動の活性化を図り、各部の実績向上を目指す。	27	3.0	2.0	途中で退部して、どこの部にも所属しない生徒が数名いるので早急に対応したい。
⑧特別支援教育	特別支援教育体制の整備	特別な教育的支援を必要とする生徒に対する支援体制の充実を図る。	校内委員会の設置、支援教育コーディネーターを中心に、必要に応じて職員の指導力の向上を目指して研修を実施する。	28	3.0	3.0	職員研修を8月に実施し、今年度は島原特別支援学校の先生に講師をお願いして、本校生徒の例を挙げてその対応策を具体的に話してもらい効果があった。
【評価分野】 3 組織運営							
評価項目	具体項目	目標	具体的方策	番号	中間	最終	成果と課題
①校務分掌	適切な役割分担・組織的な活動と運営	各自の役割分担を明確にして、適切に仕事を処理する。	前年度の各分掌の課題を確認し、その解決を図る。	29	2.8	2.5	各行事の消化に追われ、課題の克服が十分ではなかった。また、全生寮研修の成果が学校生活に生かせていないので、全職員での共通理解が必要である。
			学校全体の校務が円滑に推進できるように、分掌相互間の連携を図る。	30	2.7	2.8	データの共有など連携はとれた。校務支援システムが今後の業務をよりスムーズにしてくれると期待している。
②各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運用	各種委員会の活動の効率化と活性化を図る。	各種委員会での協議結果を、教育活動や学校経営に生かす。	31	3.0	2.9	生徒確保に向けて、今後、協議を重ねる必要がある。
③校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に研修を行い職員意識を高揚させる。	生徒の実態や本校の教育課題をふまえ、全職員参加による校内研修を行う。	32	3.0	3.3	職員向けの交通講話や体罰防止の研修など、今後も計画的に研修を実施していきたい。
④教職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター等の研修に積極的に参加する。	各種公的研修会へ積極的・計画的に参加し、資質の向上と意識改革を図る。	33	2.4	2.6	センター研修への参加は少なかった。

【評価分野】 4 教育環境							
①学校環境の整備	潤いのある生活環境・教育環境の整備	清掃活動を通じ、協調性や奉仕の精神を養い、創意工夫の心を培う。	全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。	34	3.2	3.2	これまでより生徒と職員が一緒になって清掃活動に取り組む姿勢が見られた。
②施設・設備の管理	施設・設備の安全管理と経費の節減	施設・設備の有効活用を図り、安全点検等の管理を適切に行う。	施設設備の大規模改修・安全点検を計画的に行う。	35	4.0	4.0	本年度は窓枠改修等を実施し、より快適な環境になったと思われる。施設が老朽化しているので特に安全点検は欠かせない。
			水道・光熱費、通信費等の節約に努める。	36	4.0	4.0	節約意識は概ね定着している。節約の継続には先生方、生徒たちへの働きかけが必要である。
③情報インフラの整備・充実	教育活動全般の情報化	情報機器等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンとプロジェクターを使いこなせるように努力すると共に、教科指導などに活用する。	37	3.0	2.9	タブレットを利用した研究授業を実施するなど、新しい機器を活用で取り組みが見られた。今後も研修を深めたい。
	ホームページの更新	学校の情報発信源とし、PRの手段とする。	ホームページを見やすくし、定期的に更新し最新情報を伝達する。	38	4.0	4.0	担当者が定期的に更新し、学校の情報は発信できた。
【評価分野】 5 開かれた学校づくり							
①保護者との連携	PTA活動の充実	生徒に関する情報の相互交換を密にする。	学校の教育方針や具体的活動についての情報を提供する。	39	4.0	4.0	ホームページやPTA行事、説明会等で情報提供はできた。
		PTA活動を活性化する。	学級担任、PTA役員を通じてPTA活動への出席を促し、参加率を上げる。	40	4.0	3.0	先生方、PTA役員のご尽力により、本校は高い参加率を維持している。保護者がより参加しやすい日程・内容の検討が必要となる。
②地域や関係機関との連携	学校間の連携の充実	他校や異校種との効果的な連携を図る。	県内の大学、近隣地域の高校・中学校との情報交換や連携を図る。	41	2.0	2.0	大学との情報交換はできなかったが、近隣の中高とは連携はとれた。
	外部講師の招聘	外部講師を効果的に活用する。	地域の人材を専門教科やHR等において効果的に活用する。	42	3.0	4.0	民間講師招へい事業等は、年間計画を立て予定通り実施できた。
	学校評議員との連携	学校評議員会を充実させる。	運営方針等学校評議員の意見を聞き学校運営に反映させる。	43	3.3	3.3	学校評議員からは、貴重なご意見をいただくことができた。今後もいただいた意見を反映させていきたい。

【総評】

評価の結果 (課題と問題点)	(1) 学校経営全般については、全生寮教育を根幹とする人間性豊かな人材の育成を目指した教育活動を展開しており、教育方針や努力目標については概ね周知できている。全生寮教育については、全職員で業務を割り当て組織的に取り組んだ。
	(2) 定員確保については、教務部を中心に中学生とその保護者を対象としたオープンスクールや学校説明会など、本校の特色をアピールしてきたが各学科とも募集定員を割り込み残念な結果となった。原因を調査し早急な対策が必要である。
	(3) 学習活動については、資格取得などに向けての取り組みは意欲的であるが、日々の家庭学習については生徒アンケートからも意識が低いことがわかる。2月に家庭学習強化月間を設定して意識を高めたが、今後、学校全体の問題として早急に取り組む必要がある。
	(4) カウンセリングにおいては、いじめ被害調査や悩み調査で判明したものについて担任・学年団・他分掌との連携でほぼ解決できた。
	(5) 各種検定の合格率と1級合格者数の増加については評価が低かった。
来年度の改善策	(1) については、全生寮教育は本校の根幹と位置づけ、継続的・組織的におこない問題点を洗い出し、より良い方向に改善できるようにする。また、三年間継続した指導を全職員で行うために、ホームルームや授業でも折に触れて話をしたり、学校行事等で礼法指導を徹底する。
	(2) については、企業訪問を積極的に行い進路先の確保を実現する。また、中学校訪問を積極的に行い2年生1年生を対象とした学科説明会を中学校に呼びかけ、わかりやすく教育内容を説明するなど、選ばれる島商を目指していく。
	(3) については、各教科の課題提出について指導を徹底し、家庭での学習を最低でも毎日1時間は行う習慣をつけさせる。
	(4) については、今後も学年団・他分掌との連絡連携を密にして、早期発見、早期対応を心掛けていきたい。また、外部の専門講師を招いて研修を行い教職員の資質向上を図る。
	(5) については、今年度の反省を受け、授業や補習等の改善をおこない、わかる授業を旨とし校内研修会を積極的に実施して教員の資質向上を図る。

平成25年度 長崎県立島原商業高等学校 保護者アンケート結果

I 調査実施期間 平成26年1月24日(金)～2月6日(木)

II 調査対象者数 343名

III 調査回収率 97.4% (334名/343名)

IV 評価基準 各質問に対して、

4: そう思う(あてはまる) 3: どちらかというと思う(ややあてはまる)
 2: どちらかというと思わない(ややあてはまらない) 1: そう思わない(あてはまらない)

の4段階で評価し数値を平均しています。

項目	番号	内 容	評価全体			
			1 学年	2 学年	3 学年	全学年
1 教育活動	1	本校の教育方針や努力目標はわかりやすいものになっている。	3.1	3.2	3.2	3.2
	2	子供は全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	3.0	3.0	3.0	3.0
	3	子供は社会のルールや本校のルールを良く守っている。	3.2	3.3	3.3	3.3
	4	子供は積極的に部活動に参加している。	3.6	3.6	3.5	3.6
	5	本校では、容儀・マナー・あいさつや言葉遣いなどの指導は十分行われている。	3.2	3.4	3.4	3.4
	6	本校は子供に関する保護者の相談にきちんと対応している。	3.0	3.1	3.2	3.1
2 学習活動	7	子供は授業が分かりやすいと言っている。	2.8	2.8	2.8	2.8
	8	子供は進路や資格取得など目標を持って学業に励んでいる。	3.1	3.0	3.3	3.1
	9	子供には日頃から家庭学習を行うように声をかけている。	2.9	2.9	2.9	2.9
3 教育環境	10	本校は教育に必要な施設・設備が整っている。	3.2	3.2	3.1	3.1
	11	本校は清潔で清掃が行き届いている。	3.4	3.4	3.4	3.4
4 開かれた 学校	12	本校の施設は保護者や地域に開放されている。	3.0	3.0	3.2	3.1
	13	本校は学校の様子や諸行事に関する情報を家庭や地域にきちんと提供している。	3.1	3.3	3.3	3.2
5 その他	14	PTA活動や学校行事に進んで参加している。	2.6	2.6	2.6	2.6
	15	子供は明るく生き生きとした学校生活を送っている。	3.3	3.4	3.4	3.4
	16	子供は学校での出来事を家庭で話してくれる。	3.3	3.1	3.1	3.2

平成25年度 長崎県立島原商業高等学校 生徒アンケート結果

I 調査実施期間 平成26年1月24日(金)～2月6日(木)

II 調査対象者数 342名

III 調査回収率 99.4%(341名/343名)

IV 評価基準 各質問に対して、

4:そう思う(あてはまる)	3:どちらかというと思う(ややあてはまる)
2:どちらかというと思わない(ややあてはまらない)	1:そう思わない(あてはまらない)

の4段階で評価し数値を平均しています。

項目	番号	内 容	評価平均			
			1学年	2学年	3学年	全学年
1 教育活動	1	あなたは島商の努力目標やモットー(凡事徹底)を念頭に置いて行動している。	2.7	2.7	2.9	2.8
	2	あなたは「あいさつのできる学校日本一」を目指し、積極的にあいさつを行っている。	2.9	3.0	3.0	3.0
	3	あなたは全生寮宿泊研修で養った精神を日頃の学校生活で活かしている。	2.9	2.9	3.1	3.0
	4	あなたはルールやマナーを守り、容儀や言葉遣いなどをきちんと行なっている。	3.0	3.2	3.4	3.2
	5	あなたは部活動に熱心に取り組んでいる。	3.3	3.4	3.2	3.3
	6	島商の生徒が校則違反をした時、先生はきちんと指導している。	3.1	3.4	3.4	3.3
	7	先生は親身になって何事にも相談にのってくれる。	2.7	2.8	3.2	2.9
	8	島商は進路に関する情報を提供してくれる。	3.0	3.1	3.4	3.2
	9	島商では命を大切にする教育や人権・平和教育が行なわれている。	2.9	3.1	3.3	3.1
	10	島商ではボランティア活動など地域と交流する活動が行なわれている。	3.1	3.3	3.5	3.3
2 学習活動	11	あなたは進路や資格取得など目標を持って学習に励んでいる。	3.2	3.3	3.3	3.3
	12	あなたは家庭学習を1日60分以上行うよう努力している。	2.1	2.0	2.3	2.1
	13	島商の授業は工夫がなされ分かりやすい。	2.5	2.5	2.7	2.6
	14	島商の授業では教科書以外の補助教材や教育機器等が活用されている。	2.9	2.8	2.9	2.9
	15	島商では適性・進路に応じたコースや科目を選択する指導が行われている。	3.0	3.1	3.2	3.1
3 教育環境	16	島商では教育に必要な施設・設備が整っている。	2.8	2.9	3.0	2.9
	17	島商は清潔で清掃が行き届いている。	2.9	3.2	3.2	3.1
	18	島商では健康や安全に関する指導が行われている。	2.9	3.1	3.2	3.1
4 その他	19	島商の生徒会活動は生徒が中心となって運営している。	3.0	3.2	3.2	3.1
	20	あなたは学校の出来事を家庭で話している。	2.9	3.0	3.1	3.0

1 評価の実施期日・場所等

- (1) 第1回 平成25年7月10日 本校校長室
- (2) 第2回 平成26年3月 5日 //

2 学校関係者評価委員

- 大場 雅夫 (学校評議員と兼務) 出席
- 林田 新吾 (//) //
- 伊藤 昭美 (//) //
- 長池 泰昌 (//) //

3 学校関係者評価の内容

(1) 自己評価の結果について

- 各項目の具体的方策や評価が適切に行われているかという点については、4段階評価で「学校経営分野」は4.0、「教育活動分野」が3.6、「組織運営分野」が3.5、「教育環境の整備・活用分野」が3.7、「開かれた学校づくり分野」が3.6であり、概ね適切であったと思われる。

(2) 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策について

- 自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切であるかという点については、4段階評価で「学校経営分野」が3.9、「教育活動分野」と「組織運営分野」が3.5、「教育環境の整備・活用分野」が3.7、「開かれた学校づくり分野」が3.4であり、適切であったと思われる。
- 「学校運営分野」では、1年生への課題を書いて欲しかった。「教育活動分野」では、個々に応じた指導をお願いしたいというご意見と途中でも入部しやすい体勢が欲しいというご意見を頂いた。

(3) 学校の重点目標や自己評価の評価項目について

- 「学校の重点目標が適切に設定されているか」という点については、4段階評価で4.0、「自己評価の評価項目が適切であるかどうか」という点については、4.0であり、適切であったと思われる。

(4) 学校運営の改善に向けた実際の取組について

- 「学校運営の改善に向けた実際の取組が適切であるかどうか」という点については、3.8であり、適切であったと思われる。

(5) その他

- 学校で取り組んでいる事や成果をもっとアピールできるというご意見を頂いた。
- 部活動での無所属の生徒に対する新しいクラブの新設をというご意見を頂いた。
- 5分前行動が徹底されており、今後も良い習慣として指導を続けて欲しいというご意見を頂いた。